

第3学年 国語科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【国語科の学習の目標】

《学習のねらい》

- ① 想像力をつけ、また、想像することの喜びを知る。
- ② 筋道を立てて、物事を考える力をつける。
- ③ 他の人の意見を受け入れるだけでなく、自分自身で物事の良い点や悪い点をとらえ、その価値を判断できるような力を育成する。
- ④ 古典学習を通して、古典に親しみ、古典の面白さを味わうと共に、伝統を受け継ぐ力を養う。
- ⑤ 言葉によって自己を表現すると共に、相手の言葉を理解することで、コミュニケーション能力を高める。
- ⑥ 自分に必要な情報を選択し、信頼性を見極めながら、正しい情報を収集する力を高める。
- ⑦ 言葉の力を支える基礎基本を身に付ける。
- ⑧ 自分の考えを的確に伝える文章力を身に付ける。

2 学習方法

【常に授業に持ってくるもの】教科書・ファイル・漢字クラブ・漢字練習帳

【授業に応じて持ってくるもの】タブレット・文法ワーク・硬筆セット・書き初めセット

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

＜知識・技能＞

社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

＜思考・判断・表現＞

筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。

＜主体的に学習に取り組む態度＞

言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【評価の方法】

各観点とも、国語科では、ワークシート・行動の観察・自己評価・相互評価・定期テスト・小テスト・学習ノート・ワーク・作品や発表などで評価します。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学期	- 自己紹介文を書こう ～オリエンテーション～ - 詩「春に」「初恋」「やわらかな想い」 - 随筆「立ってくる春」「なぜ物語が必要なのか」 - 一言でまとめ一言で広げる - 小説「私」 - 硬筆（硬筆展に向けて） - 読書「薔薇のボタン」「メディアリテラシーはなぜ必要か？」 「新聞が伝える情報を考える」 - 論説「A Iは哲学できるか」 - 文法「助詞、助動詞」 1学期の振り返り	- 国語の学習の進め方や持ち物等の確認。 - 詩から印象的な言葉を取り上げ、その効果についての話し合い。 - 登場人物にとっての「春」「物語」のイメージの整理。 - グループでの交流。 「私」の心情の変化の探求。 - 手本を見ての視写。 - 今まで読んだ本についてのビブリオバトル。 - 新聞の二つの社説の比較。 - 筆者の主張に対する批判的な読み。 - 助詞、助動詞の種類やはたらき。	- 授業における約束事を確認することで今後の学習を円滑かつ効果的なものとする。 - 語彙を増やし使用することで語感を磨く。 - 文章の種類とその特徴について理解を深める。 - 時間の経過や世代による言葉の変化や違いについて理解する。 - 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解する。 - 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方を理解する。
2 学期	- 論説「async 同期しないこと」「問いかける言葉」 - 説得力のある批評文を書く - ニュースで情報を編集する - 旅への思い（古典）「芭蕉と『おくのほそ道』」 - 和歌の調べ（古典）「万葉集、古今和歌集、新古今和歌集」 - 風景と心情（古典）「漢詩を味わう」 - 読書「最後の一句」 「俳句の味わい」 - 毛筆（書き初め展に向けて） - 小説「故郷」 - 言葉と社会1「コミュニケーションの場を考える」 - 自己PR文を書く - 表現の工夫をしてスピーチをする 2学期の振り返り	- 筆者の主張とその根拠に着目しての読解。 - 比較や関係付けを生かした批評文の書き方の理解。 - 効果的なナレーション。 - 歴史的仮名遣いに注意しての音読。 - 漢詩の歴史的背景、形式をふまえての読み。 「最後の一句」の文章に表現されたものの見方や考え方をふまえての読解。 - 手本を見ての視写。 「故郷」の時代背景を知った上での登場人物に対する作者の思いの探求。 - 構成や表現の仕方に注意しての自己PR文の作成。	- 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深める。 - 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりして書けるようにする。 - 歴史的拝啓等に注意して古典を読むことでその世界に親しみ、考えを広げたり深めたりして、人間・社会・自然などについて意見を持たせる。 - 語彙を増やし使用することで語感を磨く。 - 行書に調和する仮名の書き方を習得させる。 - 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間・社会などについて自分の意見が持てるようにする。
3 学期	- 持続可能な未来を創るために「生命とは何か」「地球は死にかかっている」「水の星」 「対話力」とは何か 意見を共有しながら話し合う - 言葉と社会2「自分の意見を述べるとき」 - 情報をまとめて作品集を作る - 小説「バースディ・ガール」 - 評論「青春の歌―無名性の光」 - 文法「文法的に考える」 3学期と1年間の振り返り	- 生命の定義を考え、様々な技術が進歩しているのに解決しない問題が多いのはなぜかの話し合い。 - グループで互いの意見を出し合い、共通点や相違点を整理しての意見交流。 - 中学校で書いたものの作品集作成。 「バースディ・ガール」「青春の歌」を読んで互いの感想の交流。 - 連用修飾語の働き。	- ESD とからめて中学校での学びを通じてよりよい未来を創るために、どのような社会・世界と関わっていけばよいのかについて考えられるようにする。 - 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価し、自分の考えを広げたり深めたりすることが出来るようにする。 - 連用修飾語の働きに関する理解を深める。

第3学年 社会科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【社会科の学習の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会における平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な資質・能力を身に付けることを目標にしています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・チャイム着席（授業道具を机の上に置く） ・忘れ物がないようにしましょう。（持ち物、宿題）
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。（発言は挙手→指名の後、私語厳禁）
- ・積極的に挙手をして意見を発表し、クラスで深め合いましょう。

【学習内容定着に向けた工夫】

- ・学習内容に関するメモ等は、ワークシートや各自で準備するノート・ルーズリーフ等に工夫してまとめましょう。その際には色ペンやマーカーなどを使うとよいです。授業の最後に学習したことをまとめ、「学習のねらい」に基づいて自らの学びを振り返りましょう。

【ファイルの使い方】

- ・歴史と公民の両分野で同じファイルを使います。 ・ファイルは定期的に点検します。

【授業に持ってくるもの】

歴史……教科書、資料集、地図帳、ファイル、配られたワークシート等
公民……教科書、資料集、ファイル、配られたワークシート等

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

日本の歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりすることができる。また、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

日本の歴史、現代の政治、経済、国際関係等について、学習問題を追究し、解決しようとしている。また、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

【評価の方法】

各観点とも、A、B、Cで評価します。その評価に基づき、5段階の評定を出します。社会科では、定期テスト、ワークシート、学習の振り返りやまとめ、課題などで総合的に評価をします。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・二度の世界 大戦と日本	・第一次世界大戦と日本 ・大正デモクラシー ・世界恐慌と日本の中国侵略 ・第二次世界大戦と日本	・第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、日本の国際的地位の変化や大正時代の政党政治の発達、民主主義思想の普及、社会運動の動きを通して日本国民の政治的自覚が高まったことを理解する。 ・昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目しながら、経済の混乱、軍部の台頭、戦争の経緯と大戦の惨禍を理解する。 ・戦時下の国民生活を身近に感じるとともに、戦争の惨禍に目を向ける。
	・現代の日本 と私たち	・戦後日本の出発 ・冷戦と日本の発展 ・新たな時代の日本と世界	・第二次世界大戦後の日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解する。 ・高度経済成長以降から現在までの日本と世界の動きの概要を、国民の生活と関連させて理解する。 ・戦後の諸改革や国際社会の変化、経済成長や国民生活の変化を、相互に関連付けながら、現代の日本や世界の特徴を考察し、表現する。 ・現代の日本の歴史的特徴を捉えようと見通しを持って主体的に学習し、将来の日本や世界をより良いものにしようとする態度を身に付ける。
	・現代社会と 私たち	・現代社会の特色と私たち ・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方	・現代社会の特色としてグローバル化、少子高齢化、情報化が見られ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていること、また、現代社会における文化の意義や影響について理解する。 ・現代社会を捉える見方・考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方があることを、具体的な社会生活と関連付けて理解する。
2 学 期	・個人の尊重 と日本国憲 法	・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、「ちがいのちがいがい」などの対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察、表現する。 ・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会の見られる課題の解決に向けて粘り強く取り組むことを通して、主体的に社会に関わろうとする。
	・現代の民主 政治と社会	・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち	・身近で具体的な事例を通して政治に関心を持ち、主権者として政治に積極的に関わろうとする。 ・選挙をはじめとする国民の政治参加によって、より良い民主政治が運営されることに気づき、良識ある主権者としての政治参加の在り方について考える。
	・私たちの暮 らしと経済	・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉 ・これからの経済と社会	・市場経済の基本的な考え方について理解する。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解する。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して国や地方公共団体が果たす役割や、財政及び租税の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
3 学 期	・地球社会と 私たち	・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本	・国際社会の現状や諸課題について関心を持ち、日本の果たすべき役割について考えるとともに、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けての熱意と協力しようとする。 ・国際社会における国家や国際機構、SDGsの目指すものや、NGOの役割、それらが国際社会の諸課題を解決するために行っている取組について理解する。
	・より良い社会 を目指して	・より良い社会を目指して	・持続可能な社会を実現するために、自分に何ができるか考えることを通して、社会参画するための手がかりを得る。 ・持続可能な社会を実現するために解決すべき社会の課題を探究することを通して、対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を身に付ける。

第3学年 数学科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【数学科の学習の目標】

- (1) 文字を用いた簡単な多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに、目的に応じて式を変形できるようにします。
- (2) 正の数の平方根について理解し、それを用いることができるようにします。
- (3) 二次方程式について理解し、それを用いることができるようにします。
- (4) 関数 $y = ax^2$ について理解し、関数関係を見だし、表現し、考察する能力を伸ばします。
- (5) 図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し、表現する能力を伸ばします。
- (6) 円周角と中心角の関係を理解し、それを用いて表現し、考察する能力を伸ばします。
- (7) 三平方の定理について理解し、それを用いることができるようにします。
- (8) 標本の傾向を調べることで母集団の傾向が読み取れることを理解し、標本調査の方法や結果について考察し表現することができるようにします。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・問題解決のために、まず自分で考えをまとめるとともに、先生の説明や友達の発表をよく聞いて、数学の見方・考え方の視野を広げましょう。
- ・先生の発問には手を挙げて発表しましょう。また、分からないところは質問しましょう。

【学習のしかた】

- ・答えに至るまでの過程・考え方を大切にしましょう。
- ・間違ったところは、赤で正しい解き方に訂正しましょう。そして、どうして間違っただのかを振り返り、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。

【ノートの使い方】

- ・「めあて」「公式」「見方・考え方」「解き方」「まとめ」などの欄を設け、自分で工夫して、分かりやすく整理しましょう。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書 ・問題集 ・ノート ・ファイル ・三角定規 ・コンパス ・のり ・はさみ

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

数学において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、技能を身に付けているかを評価します。

<思考・判断・表現>

数学の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

<主体的に学習に取り組む態度>

知識及び技能を取得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている、また、その取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを評価します。

【評価の方法】

定期テスト、レポート、授業への取組、主体的な表現等を総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	- 式の展開と因数分解 - 平方根 - 二次方程式	- 式の乗法、除法 - 乗法の公式 - 因数分解 - 式の計算の利用 - 平方根 - 根号を含む式の計算 - 平方根の利用 - 二次方程式 - 二次方程式の利用	- 単項式と多項式の乗法及び除法の計算ができる。 - 展開と因数分解の意味を理解している。 - 簡単な一次式の乗法及び公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。 - 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することの良さや必要性を理解している。 - 正の数の平方根の必要性和意味を理解し、正の数の平方根を含む簡単な式の計算ができるようにする。 - 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。 - 簡単な二次方程式やその解法を理解する。 - 二次方程式を用いて実際の問題を解決できるようにする。
2 学 期	- 関数 $y = ax^2$ - 図形と相似 - 円の性質	- 関数とグラフ - 関数 $y = ax^2$ の値の変化 - いろいろな事象と関数 - 図形と相似 - 平行線と線分の比 - 相似な図形の計量 - 相似の利用 - 円周角と中心角	- 具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べ、関数 $y = ax^2$ としてとらえられるものがあることを知り、その特徴を調べ、問題解決に利用することができるようにする。 - 図形の相似の概念を明らかにするとともに、三角形の相似条件をもとにして、図形の性質についての理解を一層深める。 - 基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにする。 - 観察、操作や実験などの活動を通して、円周角と中心角の関係を見いだして理解する。 - 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用できるようにする。
3 学 期	- 三平方の定理 - 標本調査とデータの活用 3年生のまとめ	- 直角三角形の3辺の関係 - 三平方の定理の利用 - 標本調査の方法 - 母集団と標本の関係 - データを活用して問題を解決する	- 観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見いだして理解する。 - 三平方の定理を具体的な場面で活用することができるようにする。 - 標本調査の意味を理解する。 - 母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで母集団の傾向が読み取れることを理解し、標本調査の方法や結果について表現することができるようにする。 1年間で学んだ数学の内容について題材間の関連をふまえて、数学全体の概要をつかむようにする。

第3学年 理科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【理科の学習の目標】

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせて、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す。

2 学習方法

【授業の受け方】

- 火、薬品、刃物などの取り扱いに注意するものが多いので、安全に最大限注意を払い、集中した態度で観察・実験に取り組む。
- 観察・実験に取り組む時は、班でしっかり協力して準備を行い、責任をもって後片付けを行う。また、記録をしっかり取り、レポートは自分でよく考えてしっかり書く。
- 生命あるものに対しては尊厳の気持ちをもって、真剣な態度で実験・観察に取り組む。

【学習のしかた】

- 意欲的な姿勢で進んで実験・観察に取り組む。（百聞は一見に如かず）
- 記録をしっかり取る。（気付いたことは、どんどんメモする習慣をつけよう！）
- 自分の考えを進んで発表しようと心がける。自分の考えを自分のことばで書くことを心がける。他の人の意見・考えもしっかり聞く。
- 実験プリントは、授業後に理科係が集めて担当に先生に提出する。
- 板書はノートに工夫してまとめる。（板書以外でも、大切なことや参考になることはメモをとろう。）
- 教科書以外の本（理科の資料集等）も読み、理解を深めたり、詳しく調べたりする。
- よくわからないことについては、積極的に質問する。
- 授業で配付したプリントはファイルにとじ込み、整理整頓して、しっかりと管理する。
- 提出物の期限を必ず守る。

【授業に持ってくるもの】

< 教科書・ノート・ファイル・ワーク >

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。

<主体的に学習に取り組む態度>

自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【評価の方法】

各観点とも、理科では、定期テスト・実験プリント・学習カード・授業ノート・ワークシート・技能テスト・小テスト・ワーク・行動の観察等で評価を行います。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	生命 生命の連続性	1 章 生物のふえ方と成長 2 章 遺伝の規則性と遺伝子 3 章 生物の種類の 多様性と進化	・体細胞分裂の観察を行い、その順序性を見いだして理解するとともに、細胞の分裂と生物の成長とを関連付けて理解すること。 ・生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだして理解するとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることを見いだして理解すること。 ・交配実験の結果に基づいて、親の形質が子に伝わるときの規則性を見いだして理解すること。 ・現存の生物及び化石の比較などを通して、現存の多様な生物は過去の長い時間の経過の中で変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連付けて理解すること。
2 学 期	物質 化学変化とイオン 地球 宇宙を観る	1 章 水溶液とイオン 2 章 電池とイオン 3 章 酸・アルカリと塩 1 章 地球から宇宙へ 2 章 太陽と恒星の動き 3 章 月と金星の動きと見え方	・水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解すること。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知ること。 ・酸とアルカリの性質を調べる実験を行い、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知ること。 ・中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解すること。 ・金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解すること。 ・電解質水溶液と2種類の金属などを用いた実験を行い、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知ること。 ・天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けて理解すること。 ・星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解すること。 ・太陽の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、太陽の特徴を見いだして理解すること。 ・観測資料などを基に、惑星と恒星などの特徴を見いだして理解するとともに、太陽系の構造について理解すること。 ・月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連付けて理解すること。また、金星の観測資料などを基に、金星の公転と見え方を関連付けて理解すること。
3 学 期	エネルギー 運動とエネルギー 環境 自然と人間	1 章 力の合成と分解 2 章 物体の運動 3 章 仕事とエネルギー 4 章 多様なエネルギーと その移り変わり 5 章 エネルギー資源と その利用 1 章 自然界のつり合い 2 章 さまざまな物質の 利用と人間 3 章 科学技術の発展 4 章 人間と環境 5 章 持続可能な社会を めざして	・水圧についての実験を行い、その結果を水の重さと関連付けて理解すること。また、水中にある物体には浮力が働くことを知ること。 ・力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の規則性を理解すること。 ・物体の運動についての観察、実験を行い、運動には速さと向きがあることを知ること。 ・物体に力が働く運動及び力が働かない運動についての観察、実験を行い、力が働く運動では運動の向きや時間の経過に伴って物体の速さが変わることに及び力が働かない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解すること。 ・仕事に関する実験を行い、仕事と仕事率について理解すること。また、衝突の実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解すること。 ・力学的エネルギーに関する実験を行い、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを見いだして理解するとともに、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解すること。 ・微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けて理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだして理解すること。 ・身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。 ・地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。 ・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。 ・様々なエネルギーとその変換に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを見いだして理解すること。また、人間は、水力、火力、原子力、太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識すること。 ・物質に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では、様々な物質が幅広く利用されていることを理解するとともに、物質の有効な利用が大切であることを認識すること。 ・科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識すること。 ・自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

第3学年 音楽科の学習について

1. 授業を受けるにあたって

【音楽科の学習の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。

2. 学習方法

【授業の受け方】

- ・時間を守る（チャイム着席を守る）
- ・忘れ物をしない（**音楽バッグ**に入れて持ってくる）
- ・音楽的な表現や活動ができる気持ちをもって授業に臨む。

【学習のしかた】

- ・説明や話をしっかり聞き、話の中で重要なことはメモを取るようにする。
- ・歌唱では歌う口形や姿勢に気をつけて伸びやかに表現する。
- ・鑑賞では曲や楽器に関心を持ちながら、興味をもって鑑賞する。
- ・ワークやワークシートはしっかり記入する。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書2冊（音楽のおくりもの2・3年下、器楽）
- ・合唱曲集「コーラスフェスティバル」
- ・音楽ファイル
- ・アルトリコーダー

3. 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。

<思考・判断・表現>

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

<主体的に学習に取り組む態度>

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

- 知識・技能……………定期テスト・実技テストの技能にかかわる項目、音楽ワーク・ワークシートの記入内容、創作した作品など
- 思考・判断・表現……………定期テスト・実技テストの思考・判断・表現にかかわる項目、音楽ワーク・ワークシートの記入内容、創作した作品など
- 主体的に学習に取り組む態度……………学習カード、実技テストの主体的に学習に取り組む態度にかかわる項目、音楽ワーク・ワークシートの記入内容など

4. 年間の学習内容

学期	教 材 名	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	曲の形式を生かして歌おう	曲想と音楽の構造とのかかわりについて理解して歌う。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。
	リコーダーアンサンブルを楽しもう	曲にふさわしい表現を工夫して仲間と合奏する。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫し、リコーダーの音色や全体の響きを味わいながら仲間と合奏する活動を楽しむ。
	曲想を感じ取り、音楽の背景を理解して鑑賞しよう	音楽と、その背景となる文化や歴史について理解し、オーケストラの表現に親しむ。	曲想と音楽の構造との関わりや背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、オーケストラの豊かな表現に親しむ。
	言葉の特徴をとらえて表現しよう	言葉の特徴と音のつながり方の特徴について理解し、創意工夫して表現する活動を行う。	言葉の特徴及び音のつながり方の特徴について理解するとともに、課題や条件に沿った音の選択や組合せを創意工夫し、言葉のリズムや抑揚を生かして表現する活動に親しむ。
2 学 期	ギターの基本的な奏法を身に付けて、表現を工夫しよう	ギターの奏法について理解し、創意工夫して演奏する。	ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏し、ギターの演奏に親しむ。
	混声合唱の響きを味わおう	曲想や歌詞の内容、曲の背景との関わりについて理解し、創意工夫して合唱する	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、混声合唱の豊かな響きを味わう。
	歌舞伎の豊かな表現を鑑賞しよう	言葉の特性と発声との関わり、文化や歴史について理解し、歌舞伎に親しむ。	長唄の声の音色や響き、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりや曲の背景となる文化や歴史について理解するとともに、長唄にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌ったり曲や演奏に対する評価とその根拠について考えたりし、歌舞伎に親しむ。
	言葉の特徴を捉えて旋律をつくろう	構造上の特徴について理解し、音の選択や組合せを工夫してCMソングを作る。	音の重なり方や反復、変化、対照などの構造上の特徴について理解するとともに、課題や条件に沿った音の選択や組合せを創意工夫し、CMソングをつくる活動に親しむ。
3 学 期	オペラの豊かな表現を鑑賞しよう	楽曲の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解して鑑賞する。	楽曲の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽と舞台によって表現される総合芸術に親しむ。
	曲想を感じ取り、曲の特徴を生かして合わせて歌おう	曲想と音楽の構造、歌詞の内容との関わりを理解し、思いを込めて合唱する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、思いを込めて合唱する喜びや感動を味わう。

第 3 学年 美術科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【美術科の学習の目標】

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・忘れ物をしない。
- ・作品の提出期限を守る。
- ・説明をきちんと聞く姿勢をもつ。
- ・不要な出歩き・私語はしない。
- ・道具の準備・片づけをしっかりと行う。

【学習のしかた】

- ・取り組む題材の概要を最初に聞く。
- ・制作の手順や計画を立てながら、アイデアを考える。
- ・作品制作を行い、完成させる。
- ・鑑賞会を行い、互いの良さを見つける。

【授業に持ってくるもの】

※教科書・資料集・筆記用具・色鉛筆・ファイルはいつも用意。

指示があった場合持ってくるもの……絵具・タブレット、その他（授業で連絡します）

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。

<思考・判断・表現>

自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

知識・技能……作品制作、プリント、文章による説明など

思考・判断・表現……デッサン、レポートの作成、作品制作など

主体的に学習に取り組む態度……レポートの記述、授業態度、教科担当における行動観察など

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・オリエンテーション(夢をかたちにするデザイン) - 仏像に宿る心 - 八幡中生旅日記 ・空想の世界へ	・学習のねらいや1年間の学習内容を理解させ、美術への興味や関心を高める。 ・仏像を鑑賞し、感じたことや、考えたことなどについて話し合う。 ・時代や種類、作者による特徴などを理解し、それぞれの仏像のよさや美しさ、作者の願い、創造的な表現の工夫などを感じ取り、作品から受ける思いについて意見を述べ合う。 〃・自分を見つめ、自分の気持ちや性格、夢や思い出などについて考え、主題を生み出す。 ・主題を基に構図、色彩などを検討し、自画像の構想を練る。 ・材料や用具、表現方法を工夫して、制作する。 ・心の中を深く見つめ、想像力を働かせて空想の世界をイメージしながら主題を生み出す。 ・主題を基に、自分の体験や物語などから、新しい世界をイメージし、表現の構想を練る	・これからの1年間の美術の学習活動に取り組む意欲を高める。 ・受け継がれてきた表現の特質などから仏像彫刻のよさや美しさを感じ取り愛情を深め、表現の意図と創造的な工夫、美術を通じた美術文化の継承と創造などについて考える。 ・自分自身を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、豊かに構想を練る。 ・材料や用具について意図に応じて自分の表現方法を追求し、制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって創造的に表す。 ・心の中を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなど主題を生み出し、創造的に工夫し、心豊かに表現する構想を練る。
2 学 期	- 空想は現実を超えて - イメージを形で表現しよう	・心の中を深く見つめ、想像力を働かせて空想の世界をイメージしながら主題を生み出す。 ・主題を基に、自分の体験や物語などから、新しい世界をイメージし、表現の構想を練る。 ・表現方法や、形や色彩、材料を工夫して表す。 ・立体による塊や動きの表現に関心をもち、イメージを追求するための様々な形の工夫を知り、具体物や心の中のイメージなどから主題を生み出す。 ・主題を基に、塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどを生かして表したい形を考え構想を練る。 ・立体としての塊や量感、動きを感じながら材料や用具を生かし、工夫して制作する。	・心の中を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 ・材料や用具について9年間の美術の蓄積を生かし意図に応じて工夫して表現する。 ・自然物や心のイメージなどから感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。
3 学 期	・魅力が伝えるパッケージ - あの日を忘れない	・パッケージデザインの働きについて考え、その工夫点を話し合う。 ・多くの人に製品の魅力が伝わるようなパッケージを発想し、形や色彩の効果などを考え構想を練る。 ・材料や用具の特性を生かし、制作の手順などを考え、パッケージのデザインをする。 ・作品から時代背景や作者の心情などを読み解き、美術のもつ力について意見を交わす。	・伝える目的や条件、中身のイメージなど、伝える相手や内容などから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考える。 ・伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫などについて考える。 ・「グルニカ」のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、表現の意図と創造的な工夫、美術を通じた美術文化の継承と創造などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

第3学年 保健体育科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【保健体育科の学習の目標】

体育・保健の見方・考え方を学び、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を鍛えます。また、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てることを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・授業開始のチャイムが鳴る前までに準備をし、指示された場所へ移動し整列します。
- ・体育着、もしくはジャージを着用します（ジャージ着用期間の目安は11月～3月まで）。
※それ以外の期間のジャージ着用は天候、気温等に配慮して指示を出します。
- ・校庭での実技は、運動靴で実施します（ハイカットや裏が平らな運動に適さない靴、スパイクは不可）。
- ・体育館での実技は、上履きで実施します（学校指定の上履き）。
- ・靴下は生徒手帳に記載されている物を着用します。
- ・保健分野の学習は、教室、視聴覚室、体育館で実施します。服装はその都度連絡があります。
- ・授業に必要なものを忘れず持ってきてきましょう。（授業用具、学習カード等）
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。（発言は挙手、私語厳禁）
- ・積極的に挙手をして意見を発表しましょう。
- ・友達の意見はしっかり聞き、そのままにせず質問をしましょう。
- ・体育小屋や体育倉庫の用具を使うときには、丁寧に安全に扱きましょう。

【学習のしかた】

- ・授業で板書したことは学習カードに上手にまとめましょう。・・・色ペンの活用、余白の活用。
- ・テスト前は、授業プリントや教科書を繰り返し確認しましょう。

【ファイルの使い方】

- ・授業で配付したプリントは、必ずファイルにとじましょう。
- ・プリントは定期的に点検します。未記入や未提出がないようにして下さい。

【授業に持ってくるもの】

- ・体育の授業、保健の授業ともに教科書、ファイルはいつも持ってきます。
※その他必要なものは、授業の内容によって違います。教科係を通じて毎回連絡しますので、準備をしましょう。

【見学する場合】

- ・見学する場合は、生徒手帳に理由を記入、押印し先生に提出します。体育委員にも連絡します。
- ・登校した後、急な体調不良のため見学する場合は、先生に申し出ます。
- ・見学が長引く場合は、毎時間生徒手帳を出さなくてよいですが、先生に申し出ます。
- ・保健室に行き、授業に遅れる場合は体育委員、保健委員、学級委員のいずれかに連絡をします。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

<思考・判断・表現>

運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

＜主体的に学習に取り組む態度＞

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

【評価の方法】

授業態度、提出物、技能（記録の向上、スキルテスト）、学習カードの記述内容、レポートの内容、単元テストなどをもとに総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学期	・体づくり運動 ・陸上 ・球技 ・水泳 ・保健	・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・短距離走、リレー ・ネット型 卓球 ・バドミントン ・クロール ・平泳ぎ、背泳ぎ ・健康と環境 ・心肺蘇生法	・手軽な運動を通して、心と体の関係に気づき、仲間と自主的に関わり合う。 ・ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組ませる。 ・中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを高めるようにする。 ・安定した用具の操作と仲間と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ・手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり早く泳いだりする。 ・健康を保持増進するために、心身の健康に対する環境の影響について理解する。 ・胸骨圧迫、AEDの実習を通して応急手当ができるようにする。
2 学期	・体づくり運動 ・器械運動 ・球技 ・陸上競技 ・陸上 ・球技 ・保健 ・体育理論	・体ほぐしの運動 ・マット運動 ・跳び箱運動 ・ベースボール型ソフトボール ・ネット型バレーボール ・走り幅跳び ・走り高跳び ・長距離走 ・ゴール型バスケ、ハンド ・健康な生活と疾病の予防 ・文化としてのスポーツの意義	・手軽な運動を通して、心と体の関係に気づき、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。 ・基本的な技を滑らかに安定してできる。条件を変えた技や発展技を行い、それらを構成して演技することができるようにする。 ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防ができるようにする。 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ・スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶようにする。 ・リズムカルな助走から力強く踏み切り、大きな動作で跳ぶようにする。 ・自己のペースを維持して走ることができるようにする。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによってゴール前への侵入など攻防ができるようにする。 ・感染症の原因とその予防法について理解する。 ・文化としてのスポーツの意義について理解する。
3 学期	・ダンス ・球技 ・保健	・現代的なリズムのダンス ・ゴール型サッカー ・健康な生活と疾病の予防	・リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによってゴール前への侵入など攻防ができるようにする。 ・健康の保持増進や疾病の予防のために、個人や社会の取り組みが重要であることを理解し、保健・医療機関を有効に利用することが必要であることを。また、医薬品は正しく使用することを理解する。

第3学年 技術・家庭科(技術分野)の学習について

1 授業を受けるにあたって

【技術・家庭科(技術分野)の学習の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・チャイム着席：(授業道具を机の上に置く) 技術室では、身支度・準備を整え、チャイム着席をしましょう。
- ・授業に必要なものを忘れず持ってきてきましょう。
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。(発言は挙手、私語厳禁)
- ・積極的に挙手をして意見を発表しましょう。
- ・工具や機械の使い方を守り、常に安全を心がけ作業しましょう。
- ・わからないところは、そのままにせず質問し、課題意識をもって授業に取り組みましょう。

【学習のしかた】

- ・板書したことはプリントに上手にまとめましょう。(色ペンや余白の有効活用)
- ・テスト前は、授業プリントを繰り返しやり直してみましょう。
- ・授業で実習したことを活かし、それぞれの力・それぞれの方法で課題解決できるようにしましょう。

【授業ファイルの使い方】

- ・授業で配布したプリントは、必ずファイルに閉じましょう。
- ・授業中に先生が話したことは、余白を活用しまとめておきましょう。
- ・疑問に思ったこと、もっと調べてみたいことはメモしておきましょう。
- ・プリント、ワークは定期的に点検します。未記入やプリントの不足がないようにしましょう。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書、ファイル、筆記用具はいつも用意しましょう。
- ・作業学習の際は体育着や学校ジャージが必要になります。

※その他持ち物は、授業の内容によって変わるため、教科連絡で確認するようにしましょう。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているか。

<思考・判断・表現>

生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。

<主体的に学習に取り組む態度>

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしているか。

【評価の方法】

授業態度、技能、作品、発表、プリントの記入、宿題、レポート、定期テストなどを総合的に評価します。宿題、レポート等は必ず提出しましょう。

4 年間の学習内容

	教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・情報技術を探る ・情報技術の問題	・身の回りにある情報の技術 ・コンピュータの構成、機能、しくみ ・情報セキュリティ ・情報モラル ・人権	・情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティの必要性について理解することができる。 ・基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解することができる。
2 学 期	・計測制御による課題解決	・生活の中で利用されている計測制御 ・計測制御の基本的な仕組み ・プログラムによるモデルの制御	・身の回りの機器が、コンピュータによって計測制御されていることに気付くことができる。 ・計測制御システムの仕組みや各要素のはたらきについて知る。 ・計測制御の条件に合うプログラムを作成することができる。
3 学 期	・計測制御による課題解決 ・これからの社会について	・プログラムの評価、改善及び修正 ・情報に関する技術の振り返り ・役割と課題、これからの社会について ・3年間の振り返り ・技術の工夫、創造と未来について	・動作の確認及びデバック等を行うなど必要に応じてプログラムの改善・修正を行い、解決結果や過程の改善及び修正を考えることができる。 ・情報に関する技術が、社会や環境に果たしている役割と影響について理解を深める。 ・情報に関する技術を評価し、適切な管理・運用の在り方や新たな発想に基づく改良と運用について主体的に考えることができる。 ・技術分野での問題解決を振り返り、私たちの未来について考えることができる。

第3学年 技術・家庭科(家庭分野)の学習について

1 授業を受けるにあたって

【技術・家庭科(家庭分野)の学習の目標】

家庭分野の学習を通して、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する能力を身に付けることを目指します。

具体的には、(1)生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに技能を身に付ける(2)課題を解決する力をつける(3)よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うの3つの柱です。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・授業に必要なものをしっかり準備しましょう。(授業道具、課題など)
- ・チャイム着席(授業道具を机の上に置く)
※被服室や調理室では、身支度、準備を整え、チャイム着席しましょう。
- ・課題解決に向けて自分の考えをもち、工夫して解決できるようにしましょう。
- ・自分の考えを積極的に発表するとともに、友達の意見はしっかり聞きましょう。
- ・特別教室の道具を使うときには、丁寧に安全に扱しましょう。

【学習のしかた】

- ・毎時間授業プリントを配付します。重要なことはメモをとりながら工夫してまとめましょう。
- ・テスト前は、授業プリントを繰り返しやり直し、教科書もよく確認しましょう。
- ・授業で実習したことを家でやり直し、実践力を身に付けましょう。

【授業ファイルの使い方】

- ・授業で配付したプリントは、必ずファイルにとじましょう。
- ・授業プリントは定期的に点検します。自分の考えをきちんと文章でまとめましょう。

【授業にもってくるもの】

- ・教室での授業は、教科書、ファイル(授業で配付)はいつも持ってきます。
※その他必要なものは、授業の内容によって違いますので、連絡をよく聞きましょう。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な内容を理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

<主体的に学習に取り組む態度>

自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組もうとしたり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造しようとしている。

【評価の方法】

学習の足あと（授業記録カード）、ワークシートの記述内容、定期テスト、行動の観察、作品、製作計画表、実践記録表、家庭での実践レポート等の内容を総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・ 幼児の生活と家族 ・ 自分の成長と家族・家庭生活	・ 自分の成長と家族・家庭生活 ・ 幼児の生活と家族 ・ 幼児の間食 ・ 1学期期末テスト	・ 自分の成長を振り返り、中学生の時期にある自分と家族・家庭生活との関わりについて考え、自分の成長や生活は、家族や家庭生活に関わる地域の人々に支えられていることに気付き、幼児期への関心をもつようにする。 ・ 幼児の心身の発達と生活の特徴、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解することができる。 ・ 幼児にとっての遊びのもつ意義や幼児との関わり方について理解することができる。 ・ 幼児の心身の発達に応じた間食の献立について考え、工夫することができる。
2 学 期	・ 幼児の生活と家族 ・ 自立した消費者となるために	・ 幼児との触れ合い体験 ・ 金銭の管理と購入 ・ 消費者の権利と責任 ・ 2学期期末テスト	・ 幼児との関わり方について事例を基に考えることができる。（触れ合い体験事前学習） ・ 幼児と触れ合うなどの活動を通し、幼児への関心を高め、よりよい関わり方について考え、工夫することができる。 ・ 幼児について体験したことや観察したことをまとめることができる。（事後学習） ・ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できる。 ・ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができる。
3 学 期	・ 家族・家庭や地域との関わり	・ 家族・家庭や地域との関わり ・ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々との関わり、協働する方法と工夫	・ 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解することができる。 ・ 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解することができる。 ・ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫することができる。 ・ 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付く。

第 3 学年 G・S 科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【G・S 科の学習の目標】

- ・相手のことを考え、積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
- ・目的や場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について簡単な情報交換ができる。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ① 休み時間中に授業の準備をし、チャイム前には着席する
- ② 大きな声ではっきりと、英語であいさつする
- ③ 授業に積極的に参加する（挙手、大きな声で音読・発表、英語でコミュニケーションを図る）

※家庭で宿題をやって授業に臨む・提出物を遅れずに出す！

【授業に持ってくるもの】

教科書、ノート、ファイル、ワーク、その他指示があったもの

3 評価の観点と評価材料

評価の観点	評価方法
【知識・技能】 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・ペーパーテスト ・ワークシートの課題 ・リスニング
【思考・判断・表現】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・論述やレポートの作成 ・作品の制作や表現 ・グループでの話し合い
【主体的に学習に取り組む態度】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業への取組状況 ・ノート、ワーク等の記述 ・生徒による自己評価や相互評価 ・パフォーマンステスト

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容
1 学期	・ Program 1 Let's Broadcast Our Activities! (Japanese Bentos Are Interesting!) ・ Program 2 Steps to Better Life (Good Night. Sleep Tight.) ・ Step 1 聞き上手になろう ・ Step 2 ポスターセッションの流れを理解しよう	・ ask(tell/want)～to... ・ It is～(for+人)to... ・ 現在完了形（経験） ・ 現在完了形（完了・継続） ・ 現在完了進行形 ・ 話題を広げるための質問やコメントの仕方について知る。 ・ ポスターセッションの流れを確認する。

	• Program3+Our Project7 The Next Olympic Event is ... ! (A Hot Sport Today) • Power-Up 1 電車の乗りかえ案内をしよう • Reading1 Do You Know This Story? (Meaning of Life) • Step3 ディスカッションの流れを確認しよう	• 〈動詞(tell など)+人+that〜〉 • 〈動詞(call など)+目的語+補語〉 • 〈動詞(make など)+目的語+動詞の原形〉 • 主語+動詞+目的語+補語 の文 • 電車の乗りかえ表現 • 話の概要やあらすじを読み取る • ディスカッションの流れを確認し、ミニディスカッションを行う。
2 学 期	• Program4 Learn Another Foreign Language or Not? (Sign Languages, Not Just Gesture) • Program5 Schools Should Have Snack Time or Not (The Story of Chocolate) • Power-Up2 ポスターから情報を読み取ろう • Steps 4 ディスカッションで使う表現をおさえよう • Program6 Future Leaders Program (The Great Pacific Garbage Patch) • Our Project 8 レストランに SDGs の取り組みを提案しよう • Power-Up3 ラジオのCMを聞こう • Program7 What Would You Do If I You Were the Principal of Your School? (Robots Can Improve Quality of Life) • Power-Up4 ウェブサイトで学校を紹介しよう	• 分詞の後置修飾 • 間接疑問文 • 関係代名詞（主格） • ポスターから読み取った情報の内容を伝え合う。 • ディスカッションで使う表現を確認し、ミニディスカッションを行う。 • 関係代名詞（目的格） • 関係代名詞の省略 • レストランに合った SDGs の取り組みを提案するためのディスカッションを行う。 • ラジオから流れるさまざまな情報を聞き、聞き取った表現を活用して商品をおすすめする。 • 仮定法過去 • 〈I wish+主語+(助)動詞の過去形〉 • ウェブサイトの構成について知り、紹介文を書く。
3 学 期	• Special Project 中学校の思い出を残そう • Reading	• 中学校の思い出について紹介する • ストーリーの内容を理解して、数文の英語でまとめ、自分の意見を含めてまとまりのある文章を書く。

第3学年のコミュニケーション学習の到達目標（CAN-DO リスト）

聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
①自分の周りで話されていることについて少し長めの議論でもその要点を理解することができる。 ②簡単なスピーチなどを聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。 ③外国の行事、習慣などに関するまとまりのある英文を聞いて、概要を捉えることができる。	①日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 ②あらかじめ学習を目的として書かれた記事や話の要点を理解することができる。 ③英語で書かれた内容が表現されるよう適切に音読することができる。	①ある話題について、賛成・反対といった複数の視点から理由を挙げて、即興的に意見を述べることができる。 ②身近なトピックについて、自分の意見や考えをわかりやすく話し、情報交換したり、会話を続けたりすることができる。	①ある話題について、賛成・反対といった定められた視点から理由を挙げて、順序立て、意見を述べることができる。 ②使える表現をつないで、自分の主張を順序立て、分かりやすく話すことができる。	①聞いたり読んだりした内容について、感想や意見などを書くことができる。 ②自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、筋道を立て、文章を書くことができる。 ③身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちを書くことができる。